京都便利堂だより

KYOTO BENRIDO DAYORI

2023 VOL. 8

7/8 盛夏号

アートのある暮らしで彩りを

便利堂ものづくりインタビュー

写真工房

山内崇誠さん◉撮影技術で文化を未来に手渡す

【特集】

美術はがきソムリエからの定期便

毎月のお楽しみ◉「美術はがき」のある暮らし

日本文化の美とともに
歩み続けて135年

アートのある暮らし

◉手拭い

日々の生活に美術を取り入れることは
暮らしに彩りを与えてくれます。
便利堂では、古典の名作から現代の作品まで
さまざまな美術作品をモチーフとした
アイテムを取り揃えています。
毎号その中から、おすすめをピックアップして
美術商品と暮らす日常風景をご紹介していきます。

写真・山内崇誠（便利堂写真工房）

手拭いには、独特な清涼感があります。たとえば鄙びたお寺の手水舎に、鴨居から吊り下げられた手拭い。吹き抜けるゆるやかな風に揺られてかすかにそよぐ手拭いは、何やら清らかで潔く、清浄な空間にぴったりです。これがタオルだったら…きっと空気感は一気に変わることでしょう。

◆

細く畳んだ手拭いの鉢巻きは、時に祈りさえも込めるものになります。職人さんや寺社の祭事、はたまた運動会の紅白リレーなど、今でもその姿を見かけます。身を引き締める、清らかなものを身に着ける。日本人は昔から、この切りっぱなしの晒し木綿に布以上の意味合いを感じていたようですね。

◆

特徴のひとつは、その速乾性。雑菌が繁殖してしまう前に乾ききるため、夏場に何度手を拭いても嫌な匂いがしません。そして折り畳むとコンパクトで携帯性が良いのに、広げると大きく、小さめのバスタオルのような使いかたができてしまいます。夏場の子どもとのお出かけなど、どんなハプニングがあるかわからない折に、バッグにこれひとつあれば心強い味方です。手拭いが持つ独特な清涼感は、実用面に裏付けられたものなのかもしれません。

◆

さらに、江戸時代には屋台の看板や暖簾がわりにも使われていたほど、長方形に込められたデザイン性の高さも大きなポイント。便利堂の手拭いは鳥獣戯画と若冲の墨絵をそのまま活かしたデザインとなっています。実用品として思いっきり使うも良し、インテリアとして飾って楽しむも良し。便利堂は、日本の暮らしに息づくアイテムを活かし、美術作品を楽しく気軽に日常に取り入れるご提案をいたします。

手拭い 〈伊藤若冲〉 全３種
￥1,320

お手拭きや台拭き、携帯用のハンカチ、お弁当包みなど、様々な用途でお使いいただける手ぬぐい。端の断裁部分がほつれず綺麗なところがポイントです。全て広げると縦約１メートルと、作品の迫力をより感じられる大きさになっています。

風呂敷・手拭いアイテムへのリンク

本誌に記載された表示価格は、すべて税込です。

折々の絵はがき

《おしろい》広田多津
昭和 12 年 京都文化博物館蔵

彼女から漂うさわやかな色香。きっと本人は気にも留めていないでしょう。この絵には夏の早い朝のような瑞々しさが感じられます。ふっくらとやわらかそうな指先でおしろいの様子をそっと確かめる、いうなればちょっとした「仕込み」のような場面です。ふと、袖口ではなく脇から出した手に気が付くと「だってたもとが邪魔になるんやもん」と、言い訳めいた声が聞こえる気がしました。せっかちなのか立膝で腰を浮かせたところを見ると、仕上がりは間近なのでしょうか。

鏡をのぞく表情が「まあこんなもんかな」という風にも見えるのは、美しく装うことよりも、この後のお座敷に気を取られているせいかもしれません。こうしている間にも、彼女は頭のなかで、唄の節や振りをおさらいしている気がするのです。

広田多津は京都の女流画家です。健康的な色気のある裸婦や舞妓を描き、日本画の新境地を築きあげました。白いうなじは芸妓のしるし。彼女たちは何年もお稽古を重ねた踊りや唄、三味線でお客さまをもてなします。「よっしゃ」。最後にはそうつぶやいて立ち上がる姿が目に浮かびました。もっと上手になりたい。美しい横顔からはそんなひたむきさが伝わってきます。

表紙の絵はがき：
絵はがき〈おしろい〉
広田多津　￥110

京都便利堂だより

KYOTO BENRIDO DAYORI

2023 VOL. 8
7/8
盛夏号

CONTENTS

アートのある暮らし 02
便利堂ものづくりインタビュー
写真工房 04
季節のごあいさつ❽ 10
美術はがきソムリエがえらぶ
季節の絵はがき：盛夏 11
美術はがきソムリエからの定期便 12
Information 16

2023 年
7 月 1 日発行
（奇数月発行）

企画・制作・発行　株式会社便利堂
Director　鈴木　巧
Chief Staff　中嶋直子
Staff　西川　愛 / 増尾麻黄 / 田中　恵

※本誌記載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

背景にあるのは、昭和10年に撮影し、同12年に複製を作成した法隆寺金堂壁画。戦前から先輩たちが使用してきた大判のアナログカメラと一緒に。最近はもっぱらデジタルカメラになりました。

便利堂
ものづくり
インタビュー
【第8回】

写真工房

◉山内崇誠さん

手ごろな商品を通じて美術をより身近に親しんでいただきたい——。企画・デザインから制作まで、妥協のない姿勢で取り組んでいる便利堂のものづくりの裏側を、作り手の声でご紹介していきます。

明治時代に開設された〈便利堂写真工房〉は、今も続く文化財撮影専門のスタジオとしては、日本で最も古いもののひとつです。伝統の撮影技術で写された写真は、便利堂商品にも生かされています。職人技を受け継ぐ撮影技師、山内崇誠（たかなり）さんにお話を伺ってきました。

聞き手：社長室　前田千穂（左）

便利堂写真工房
明治38年、絵はがきを内製化するために開設されたコロタイプ工房とともに創設。当初は絵はがき用に京都の名所風物を中心に撮影していたが、明治末頃より社寺の宝物をはじめとする美術品、文化財の撮影を手掛ける。以来、文化財撮影一筋で今に至る。

——山内さんには、本誌の最初の見開き記事〈アートのある暮らし〉で、毎号すてきな「美術商品のある風景」を撮っていただいています。

慣れない撮影で…めちゃめちゃ苦労しています。もうちょい前行って、もうちょい後ろ下がって、あぁ行き過ぎや、後ろの景色が入らへん！なんて言いながら、こうかな？ああかな？と、毎回試行錯誤を繰り返しています。

——ふふふ。でも、なんだか楽しそうです。

写真工房で培ったテクニックはここでは関係ないんですよね。日々の暮らしのなかで僕らがどんな風に便利堂の商品を使っているのか…。その日常を切り取るってなかなか難しい。言ってみればどれもリアルな山内家の日常の光景ですが、このページを見てくださる皆さんに少しでも使用感を想像していただけるよう、「こんな風に撮影した方がもっと伝わるかな？」と想像力を働かせています。これまでそういうことをしたことがなかったので、もう必死ですよ。

本号の〈アートのある暮らし〉カット撮影風景
子どもたちが寝そべるリビングがスタジオ替わり。まさに生活感あふれる中で、美術商品がある日常風景を鋭意取材中

僕らが撮影しているのは
言ってみれば
便利堂の「タネ」ですから。

——普段の写真工房のお仕事とは180度違いますね。

そうですね。写真工房では文化財撮影が中心です。でも、だからといってコロタイプの文化財複製を依頼いただく博物館の方々や、文化財写真を掲載していただく出版社さんだけが僕ら写真工房のお客様かというとそれは違います。僕らが撮影しているのは言ってみれば便利堂の「タネ」ですから。

——便利堂のタネ…？

僕らが撮影した時点では、それがこの先、どんな形に使われるか、必ずしも決まっているわけではありません。複製かもしれない。図録の図版に掲載されるかもしれない。その一方で、どの画像も絵はがきやクリアファイル、レターセットや扇子など、さまざまな便利堂の商品のモチーフになる可能性もあります。だから僕らの撮った写真はどんな形にもなる、便利堂のタネなんです。撮影したものが商品になって、皆さんに暮らしの中で使ってもらえるってやっぱりうれしいですね。誰かのかばんの中に入っていたり、家へ連れて帰ってもらうことを想像すると、この会社にいてよかったなぁと思います。だからこそ、〈アートのある暮らし〉のページでは、こんな風に日常を彩る商品がありますよっていうことを伝えたいんですよね。

——なるほど、だからタネなんですね。山内さんがカメラに触ったのは便利堂へ入ってからですか？

そうですね。僕は写真工房がどんなことをやっているのかを知らないまま入社しました。工房では文化財撮影の技術を次の世代へ伝えていくために、まっさらの人間を求めていたんです。だから何も知らない自分はきっと都合がよかったんでしょうね。撮影技師を育てるために大切なのは「原本に忠実に」ということ。先輩からは一つずつ小さな点を打つみたいに、それをじっくり教わりました。

——厳しかったと聞いています。

自然と身につく技術については先輩から言葉で説明されたことはほぼありません。反対に、ものに対する姿勢やとらえ方、何が便利堂の写真の正解かについては何度も教えてもらいました。あれしろ、これしろ、遅い、へたくそ、雑やと言われながらとにかく言われたことを言われた通りにする。正直、働いて飯を食うってこんなに大変なんやとつくづく思いました。でもね、何かの技術を身につけるためには、あの時の自分のように、ただひたすらそれだけに時間を費やす必要があるんだと思います。なぜこの作業が必要か、なぜ作業スピードを上げないといけないのか、丁寧にする理由は何か、やっているうちに全部がだんだんわかっていく。写真のシャッターを切るなんて、5年はさせてもらえなかったです。

出番が少なくなったアナログカメラですが、今もその撮影技術は健在。「たまにアナログ撮影をすると、お客様も興味津々です」

まっさらだった自分が徐々に写真の仕組みを理解し、頭と腕を鍛えていくための時間でした。

――時間の経過とともに小さな点が少しずつ、つながっていくんですね。

先輩からは1枚ごとの真剣勝負を見せてもらっていたんだと思います。一緒に行った現場で撮られた写真を見ても、当時の僕にはいつかこんなものを撮れるようになるなんてとても思えませんでした。貢献できているとはまるで思えないまま、それでも朝から晩まで毎日毎日そればっかりやってると、次第に言われなくても動けるようになっていきました。ちょっと照明の電気コードをさばいておこう、三脚を用意しておいた方がよさそうやなとかね。そうやって仕事を覚えていきました。

――やがてそんな日々の積み重ねが生きる時がやってきます。

便利堂の写真は
一見すると普通の写真ですが
撮ろうとするとそう簡単には撮れません。

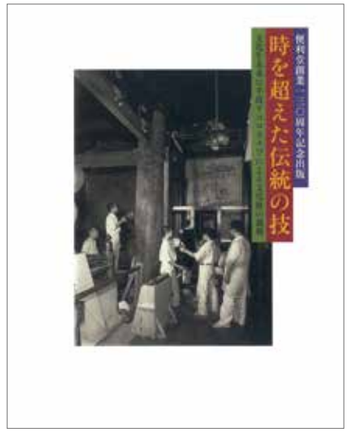
写真工房の先輩たちは日本写真史に残る大きな仕事をいくつも成し遂げてきました。でも、きっとみんな最初は僕と一緒だったと思うんです。ただカメラが好きというだけで文化財は撮れません。シャッターを切るのは一瞬の勝負です。どんな環境であれ、その一発勝負で確実に答えを出すには、そこにいたるまでの下積みと経験がないとできないんですよ。苦しかったけど実感としてそれがよくわかりました。

――技術が身についてからはいかがでしたか。

写真が撮れるようになったらなったで、今度は緊張の連続でした。今でも充実感とともに常に緊張が付きまといます。便利堂の写真は一見すると普通の写真ですが、撮ろうとするとそう簡単には撮れません。普通が一番難しい。知識が浅いうちは国宝、文化財と聞くと身構えていましたが、それは平たくいえば時間をかけて大勢の人が大切にしてこられたものだということです。その思いに失礼のないようにしたい。どんな時も行き届いた丁寧な仕事をしないとだめだと思っています。

――写真工房の長い歴史のなかで、技術と一緒にそうした思いも受け継がれてきたんですね。

便利堂の写真工房は、現存する文化財撮影に特化した工房としては最も古いものの一つです。一世紀以上に渡る歴史の中で、《當麻曼荼羅》の原寸大撮影、大英博物館《女史箴図巻》撮影、《高松塚古墳壁画》の撮影など、日本中の注目を集めるような撮影を何度も手掛けてきました。そうした中でも、やはり《法隆寺金堂壁画》の原寸大撮影は、国家事業として空前絶後の大仕事だったと思います。この『時を超えた伝統の技』の表紙に掲載しているのが、その原寸大分割撮影の様子です。



《法隆寺金堂壁画》原寸大撮影（昭和 10 年）

『時を超えた伝統の技』 ￥990
法隆寺金堂壁画原寸大複製をはじめとするコロタイプによる文化財複製とその職人技について紹介

《當麻曼荼羅》原寸大分割撮影（昭和 14 年）

《女史箴図巻》原寸大及びカラー撮影（昭和 41 年）

《高松塚古墳壁画》撮影（昭和 47 年）

『高松塚古墳壁画撮影物語』 ￥990
発見当日の生々しい状況や翌日の撮影模様など、弊社カメラマン始め当時を知る関係者の証言を集めた記録集

橿原神宮境内撮影（昭和 15 年頃）

丸太を組んだ高い足場からの撮影。紀元二千六百年奉祝紀元節大祭に際した取材と思われます

世界的にみても類例のない
写真文化史に残る
極めて重要な撮影事例です。

――法隆寺金堂壁画は、昭和24年（1949）に惜しくも焼損しました。

写真工房では、それ以前の昭和10年（1935）に、当時の文部省の依頼で壁画を原寸大分割撮影していました。現在、法隆寺の金堂において私たちが目にすることができる壁画は、この乾板を使って刷られたコロタイプを下地として昭和42年（1967）に再現模写されたものです。

――この原寸大をはじめとする一連の撮影原板は、焼損前の姿をうかがい知ることができる「唯一無二」の貴重な文化的資料として、先年、重要文化財に指定されました。

現存する写真スタジオでは初めてのことです。この原寸大分割撮影は、全紙サイズという、約56×46センチの大きなガラス乾板フィルムをイギリスから輸入して行われました。まだ日本のフィルムでは品質に不安があったからです。50ダースを注文したのですが、間違いではないか、とイギリスから照会がきたという逸話が残っています。

――確かに、そんな大きなフィルムを大量に発注とは、前代未聞に違いないですよね。

そうです、世界的に見ても類例のない、写真文化史に残る極めて重要な撮影事例です。大規模な「原寸大分割撮影」が特殊であるのはもちろんですが、同時に当時のカラー撮影である「4色分解撮影」と「赤外線撮影」も行っています。これが文化財撮影として、当時考えられうることを全てやっていて、とても評価が高いんです。

――4色分解撮影とはなんですか？

当時は現在のようなカラー撮影はまだ普及しておらず、ガラス乾板ももちろんモノクロです。このモノクロ乾板4枚に、それぞれ違う色フィルターをかけて撮影し、色情報を記録することを4色分解撮影と言います。文字通り「色」を4枚のモノクロ原板に「分解」するのです。ですので、これをカラー写真にするには、印刷で図版として4色を「合体」させる必要がありました。

――難しくてピンときませんが、これを撮影したおかげで壁画のカラー情報が記録できたことは理解できます。

当時の色が確認できる貴重な原板です。でも、この4色分解撮影は当初予定になく、「たまたま」だったのです。

——どういうことでしょう？

この原寸大分割撮影は2ヶ月半もの時間がかかったのですが、その終盤、当時便利堂四代目社長であった中村竹四郎が現場を視察に訪れました。その時、全紙のガラス乾板が少し余っていることを知り、急遽壁画全図の4色分解撮影を命じたのです。

——いろんな偶然が重なっています。

しかし、そんな大きなフィルムで撮影しても使い道がないので、社内でも反対意見が多かったようです。実際、撮影後にお寺に報告したところ、予定にないことをしてと、ずいぶんお叱りを受けたそうです。

——でも、焼損した今となっては、この撮影は大英断に思えます。かけがえのない記録となりました。

もちろん結果論ではあるのですが、これもやはり一つの「便利堂のタネ」なのだと思います。撮影したものがどのように役に立っていくかは想定しきれない部分があります。けれども、撮影して記録しない限り、何も生まれません。後世、どのように使われる場面が訪れても、さすが便利堂の写真はしっかり撮れてる、そう言っていただけるように日々取り組んでいきたいと思っています。

関わってみて
このスキャニング事業の向こう側には
大きな何かがあるなと思いました。

大型ガラス乾板専用高精細スキャナー
壁画原板の作業を想定し、全紙サイズのガラス乾板に対応できるスキャナーを 2016 年に京都大学と共同で開発

——この貴重な壁画の原板も撮影からすでに80年以上が経過しています。

劣化は避けようもありません。また、扱いも難しいため長らく蔵にしまわれたままでした。そこで2019年に文化庁と法隆寺を中心にスタートしたのが「高精細デジタル化プロジェクト」です。原板のうち法隆寺が所有する原寸大分割撮影原板363枚をデジタルアーカイブ化し、画像の保存並びにその利活用をしようというものです。便利堂は、これに対応できる超高精細スキャナーをすでに開発してありました。

——先輩たちが撮影した原板から、「失われた文化財」が現代の技師の手によってよみがえり、未来へと手渡される…。すごいプロジェクトです。

2年に及ぶプロジェクトですが、スキャニング作業だけで約3か月かかりました。非常に繊細な機械ですので、ごくわずかな振動も感知します。集中力を途切れさせるわけにはいかず、チームで何度も確認を繰り返し、慎重に進める必要がありました。しかも高解像度でスキャニングするために、1回で読み取れる横幅が、わずか12センチ。原板1枚あたり、5本の短冊状のデータができ、これを一つずつつなぎ合わせて、ようやく1枚の画像データになります。これには苦労しましたね。

——363枚ものガラス原版を1枚1枚ですか…。言葉がありません。

関わってみて、このスキャニング事業の向こうには大きな何かがあるなと思いました。壁画は焼損しているので実際には確かめようもありませんが、僕らがデータ化したことで、描かれた当時の絵の描写や濃淡、色の重なり具合などをうかがい知ることができます。壁には何の植物の繊維があり、どんな幅や長さの素材が使われているかなど、専門の研究者が見れば新しい発見に近づけるかもしれません。僕らがやっているのは、失われた貴重な情報を専門家や研究者にパスすることでもあるんです。そのためには情報がクリアでないと意味がありません。あるものはあるように、ないものはないままで、過去から現在、未来へとパスする。携わった人間としてはそういう気持ちでいます。

——大きな意味がありますね。

撮影した時代は古いですが、僕らはそれを新しい見せ方でたくさんの人へ届けることができます。情報がはっきり見えると、見る側も受け取り方がまったく違う。データ化すると見たい場所にズームできるので、着物や建物、植物など、見えないとあきらめていたものを詳細に見ることができる。きっとさまざまな文化の研究に役立てられるでしょう。そういえば、金堂壁画の写真の1枚には虫が止まっていました。等倍で撮影されているので体長何センチかまでわかります。こんな風にテクノロジーの力は撮影者が意図してないところまで僕らに見せてくれるんです。面白いですよね。

東京国立博物館「デジタル法隆寺宝物館」
2023 年 8 月 1 日〜 2024 年 1 月 28 日

——この夏、東京国立博物館では、「デジタル法隆寺宝物館」と題して、このプロジェクトで作成した画像データを活用した〈法隆寺金堂壁画　写真ガラス原板デジタルビューア〉が展観されます。堂内を再現して配置したグラフィックパネルとともに、焼損前の金堂壁画の姿が70インチの大型8Kモニターに映し出される予定です。

このデジタルビューアは2020年にオンライン上で公開され、PCやタブレット、スマートフォンで閲覧可能です。でも、会場で法隆寺の世界に浸ったうえで見ると、よりいっそう、そこに込められた思いが伝わってくるのではないでしょうか。

——先輩たちの地道な取り組みの積み重ねは、こんな風に未来へつながるんですね。

僕は文化財撮影もスキャニングも、広い意味では、今はまだここにいない次の世代のために担うものだと思っています。僕の孫やひ孫、その先の世代も僕らの画像を使って学ぶかもしれません。その想像は僕にとってすごくわくわくする、明日へのモチベーションです。僕たちの仕事が誰かの学びや研究の手助けになって、未来を生きる人たちへ今よりもっと豊かな世界を手渡すことにつながるならうれしいですね。

——文化財撮影、ガラス乾板スキャニング事業など、写真工房のお仕事がよくわかりました。

便利堂っていろんなことをやってるんやなあって思っていただけたらうれしいですね。もしかするとお堅い会社だと思っている方も多いかもしれませんが、決してお堅くはないんです。でも、ものづくりに手を抜けない会社なんですよね。

——たしかにそうですね。

手に取ってくださる方にちゃんとしたものを手渡したいから、まあどの部署も手は抜きません。とにかく本気。商品企画もコロタイプ工房も、生産管理部門も物流管理部門も、どこか一か所ではなくみんなが本気でいいものを作ろうとしているので、もちろん僕らも本気を出さないと。あらためて、一つのものづくりをするのに、こうしてほとんどを社内でまかなえるというのはすごくいいことだなと思います。もしこれが、カメラマンは外へ頼む、企画や編集は外部でとなったらやっぱりちぐはぐになっていくのと違うかな。

——社内のみんな、信頼関係がありますよね。

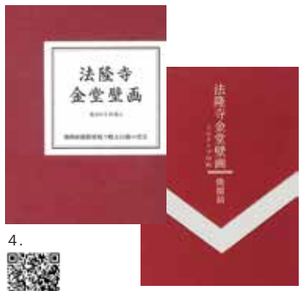
うちの生産管理が仕上がりを確認しているから大丈夫。資材が選んだ紙なら間違いない。写真工房のこともそんな風に信頼してもらっているのを感じます。僕らはどんなものにも使える確かな写真を撮ってその信頼に応えていくだけ。店内を見回してもらえば、そこには僕らが撮った文化財がモチーフになった商品がいくつも並んでいます。それは少しでもいいものをお客さまへ手渡したいという、社員の思いから生まれたものばかりです。ひとつのチームでこだわりぬいて取り組むものづくりの形に触れてもらって、お客さまお一人お一人にうちの会社のファンになっていただきたいですね。

2.

1.

《法隆寺金堂壁画》原板からの商品

1. **【限定版】〈ヴィンテージ銀塩写真プリント〉（全 2 種）**
原板から写真技師が手焼きした希少なプリント
シート：¥4,400　パネル：¥7,700　額装：¥18,700
2. **『原寸大コロタイプ印刷による法隆寺金堂壁画選』**
原板からカラー１点、モノクロ６点を収録。
¥38,500　（発行：岩波書店）
3. **〈コロタイプ版 絵はがきセット〉（８枚組）**
原板からコロタイプで作成　¥1,760
4. **〈カラー版絵 はがきセット〉（19 枚）**
４色分解原板からカラーで壁画を再現　¥1,650



3.

4.

※過去にメルマガで配信した記事を再構成しています。インタビューのバックナンバーはこちら

季節のごあいさつ❽

暑中見舞い

小暑から立秋の前日まで

「手紙なんてちょっとおおげさかな。」でも、感謝やお礼、ともに喜び合うお祝いの気持ちなど、ときには手書きではがきやメッセージカードにちょっと季節の言葉を添えて送ってみてはいかがでしょうか。折々の季節のごあいさつをご紹介します。

Season Greetings vol.8

相手を気遣うお便り

季節のあいさつ状の一つの暑中見舞いは、一年で最も暑さ厳しい折に相手を気遣い、互いの近況を報告し合う日本の慣例です。しかし年賀状でさえも減ってきた昨今、暑中見舞いはそれにも増して、の感がありますが。日本郵便発行の暑中見舞いはがき「かもめーる」は2020年で販売終了。時代の流れを感じます。

暑中見舞いのはじまり

お盆に里帰りする際にお供えの品を持参していたことが、江戸時代にはいわゆるお中元の習慣となり、遠方へは贈り物と書状を飛脚便で送っていたことから、明治に郵便制度ができると、あいさつ状のみを送る習慣となり、大正時代に今の「暑中見舞い」という形が定着したそうです。

暑中見舞いはいつ出す?

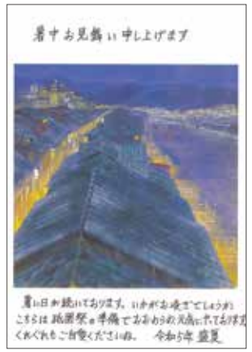
暑中見舞いは、二十四節気の小暑(7月7日頃)から立秋の前日(8月7日頃)に出すのが通例。実際の暑さよりも暦が基準となります。文面には相手の健康を気遣う文章と共に、自身の近況報告も添えて。あいさつ状は互いのコミュニケーション。暑中見舞いを受け取った場合は、必ずお返事を出しましょう。あまり形式にとらわれず、気持ちがこもったお便りが良いのではないでしょうか。

日本郵便の夏用はがきと切手シート

「かもめーる」は終了しましたが、日本郵便は毎夏新しいスタイルの夏のお便りはがきを発行しています。2021年にはQRコードで画像が動く仕掛けの官製はがきが、2022年には官製はがき1種と、「夏のグリーティング」切手が2種発行されました。今年も昨年同様、夏用はがき1種と切手シートが2種が発売中です。

便利堂では、今夏からは季節のはがきを定期的にお届けする頒布会をはじめました。気に入った一枚であの方へお便りを送ってはいかがですか?

【カードの文例】



《先斗町蒼刻》藤本静宏 京都文化博物館

■夏のグリーティング切手

84円（図版）と63円の2種類のシートが発売中！

美術はがきソムリエ推薦のはがきに使えば、グッと夏らしさがアップ！

♬毎月ふみの日に、ソムリエが厳選した美術はがきが1年間ご自宅に届きます♪

美術はがきソムリエからの定期便

◉くわしくは専用サイトから➡

美術はがき
ソムリエがえらぶ

季節の絵はがき

盛夏

1

2

3

4

5

6

7

8

1《髪梳ける女》橋口五葉
2《温泉宿》橋口五葉
以上、千葉市美術館
3《化け物の夢（夢にうなされる子供と母）》喜多川歌麿　国立歴史民俗博物館
4《台所美人》喜多川歌麿
東京国立博物館
5《鴨川の夕涼み》梶原緋佐子
京都文化博物館
6《納涼美人図》喜多川歌麿
東京国立博物館
7《いとさんこいさん》北野恒富
京都市美術館
8《美人散歩》黒田清輝　東京国立博物館
すべて￥110

汗ばむ額を扇(あお)ぐ着物姿が美しい、そんな季節がやってきました。この時期にぴったりの、とっておきの美人画をご紹介しましょう。

湯上りのひととき。「大正の歌麿」と呼ばれた橋口五葉が描く、伏し目がちな女性たちは映画のワンシーンのようであり、飾らない恋人との時間のようでもあります。

ぐずる子をあやす時、必死に窯を吹く時、女子トークに花が咲く時。華やかにしゃなりと着こなした姿も素敵ですが、ふとした日常のひとこまが紡ぐ小さな物語を想像してみるのも楽しいものです。

増尾麻黄（ますお・あさぎ）：
美術はがきソムリエとして、手のひらサイズの美術館〈絵はがき〉の楽しみ方をご提案します。偶然見かけて懐かしくなり、たまご（風船）アイスを買いました。最後に勢い良く中身が飛び出してこぼした経験、皆さんもありますよね？　店舗で見かけたらぜひお声をかけてください。

【特集】毎月のお楽しみ◉「美術はがき」がある暮らし

美術はがきソムリエからの定期便

書いて楽しむ
集めて楽しむ
飾って楽しむ

毎月ふみの日に
ソムリエが厳選した美術はがきが
1年間ご自宅に届きます。

◉毎月〈ふみの日〉に絵はがき 10 枚を 1 年間お届けします。

■毎月 15 日までに新規お申し込みいただくと当月のふみの日（23 日）から定期便が 1 年間届きます※。
※どの月からでもお申し込み可能。配達状況により到着日は前後します。

◉月々わずか 1,200 円（税・送料込）

■年間 14,400 円：月々 1,200 円（税・送料込）×12 ヶ月※
※途中解約はいつでも可能です。月々払いはクレジットのみとなります。くわしくは専用サイトをご確認ください。

◉毎回、コロタイプ絵はがき〈季趣五題〉（385 円）が必ず 1 枚入っています。

◉定価 1,675 円の約 28% off（通常はがき 4 枚分お得）

■定価：1,675 円（季趣五題 385 円＋通常はがき 9 枚 990 円＋送料 300 円）が 1,200 円でお求めいただけます。

◉特典も盛り沢山！

❶毎回、お届け作品をやさしく解説した〈特製ブックレット〉付き

❷年間一括払いでのお申し込みの方に絵はがき立てをプレゼント（先着 100 名様）
◆〈ワイヤー絵はがき立て〉（定価 629 円）を初回月にお届けします。

❸さらにもれなく 2 大プレゼント
◆ 11 月に、〈わたしだけの絵はがきカレンダー 2024〉（定価 300 円）をプレゼント
◆最終お届け月に、全 120 枚が収納できる〈定期便特製コレクションボックス〉をプレゼント

※コレクションボックスの写真はイメージです。
実際におお届けするものと変わる可能性があります。

美術はがきソムリエの私たちが自信を持って選びました！

増尾麻黄（左）
京都便利堂 直営ショップ スーパーバイザー。絵はがきを通して堅苦しいイメージがある美術品や美術の世界を、身近に感じてもらえると嬉しいです。

安野美奈子（右）
京都便利堂 本店 店長。ご来店の際は、店頭にない絵はがきもご提案させていただきます。お気軽にご相談ください。

安：ワクワクする新企画がスタートしました！

増：美術はがきソムリエの腕の見せどころですね。笑

安：店頭でお客さまの絵はがき選びをお手伝いしてきましたが、これはまた違った絵はがきとの関わり方でドキドキします。

増：お店ではいつどんな質問がくるかわからないので、たとえば主題は人物画でも、端の方に小さく草花が描かれていたら何の花か調べます。お客さまが「知りたい」と思われたときにお伝えしたいですから。

安：手のひらサイズの絵はがきには、小さく描かれたところにも目を凝らすといろんな発見がありますよね。

増：〈美術はがき定期便〉は、私たちが毎月テーマを決めて、それにピッタリな絵はがきを選んで皆さまにお届けする趣向です。

安：7月のテーマは〈清々しい「青」〉、8月は〈夏バテを吹き飛ばす！〉ですね。

増：季節感のあるもの、季節関係なくテーマ重視でオススメしたいもの、それぞれ織り交ぜました。なにしろ選びたいものがたくさんあって、悩みました。笑

安：便利堂の絵はがきは千種を超えますから、自分では選ばないような、思いがけないものが届く楽しみもありますね。

増：私たちにとって、そんな新しい作品との出会いと、「これが好き」という思いを一緒にお届けできるのが一番のやりがいかな。

安：毎号、選んだ作品を私たちが紹介した特製ブックレットも添付しています。

増：美術は興味があるけど詳しくない、という方にも、ちょっとした「学び直し」の機会になればいいなと思います。

安：お届けした絵はがきをきっかけに「今度は本物を見に行こう」と旅が始まるかもしれない。この定期便がそんなきっかけになればすてきですね。

■便利堂特製オリジナル封筒（定価 165 円）にセットしてお届けします。

8 月 15 日までのご注文（8 月 23 日頃にお届け）

8月〈夏バテを吹き飛ばす！〉

7 月 15 日までのご注文（7 月 23 日頃にお届け）

7月〈清々しい「青」〉

◉くわしくは専用サイトから⬇

大正12年創業の京都信用金庫の
創立100周年を記念して、京信本店ロビーにて
弊社が明治時代に制作した京都の風景・祭はがき
約200点を展観いたします。
祇園祭で盛り上がる夏の京都にお越しの際は
ぜひお立ち寄りください。

〈船鉾〉昭和４年　四条寺町北西角をみる
写真は四条寺町で南に辻回しする直前の姿をとらえたもの。現在の巡行ルートになる以前の、いわゆる「右回り巡行ルート」時代の写真。四条烏丸から出発して、ここ寺町四条で方向転換し南下、松原通りで再度転換し西向きに巡行、松原烏丸で解散していた。

京都信用金庫創立 100 周年本店企画

古写真でふりかえる〈京の百年〉

ー明治のコロタイプ絵はがきを中心にー

"Hundred Years of Kyoto" Reflected in Old Photographs
Focusing on Collotype Postcards from the Meiji Era

2023 年 7 月 3 日(月) ー 7 月 31 日(月)
平日 9：00 ～ 15：00
会場：京都信用金庫 本店ロビー　入場無料
京都府京都市下京区立売東町７番地　075-211-2111
共催：京都信用金庫・株式会社便利堂

イベントについてくわしくはこちら

イベント❶
京都便利堂ポップアップショップ
7/12(水)～14(金)、19(水)～21(金)
10：00～16：30
期間限定で京都便利堂のショップが京信本店ロビーにポップアップ。絵はがきから、さまざまな美術品をモチーフにしたステーショナリーなどのオススメ美術グッズを取り揃えました。

イベント❷　参加無料
コロタイプ体験ワークショップ
7/12(水)～14(金)
❶10：30～12：00　❷13：00～14：30
❸15：00～16：30　（時間中随時受付）
お子様から大人まで、どなたでもお気軽にコロタイプが体験できます。その場で参加いただけ、ご自分で作ったプリントをお持ち帰りいただきます。

MICHAEL KENNA

Michael Kenna
《Hokkaido 2020》￥9,900
繊細なモノクロームの風景写真で知られる英国人写真家マイケル・ケンナ。雪に覆われた北海道の大地に立つ名もなき木々がコロタイプによって「侘び」が感じられる独特の風合いに表現されています。７点収録

マイケル・ケンナ《北海道 2020》

コロタイプ・ミニポートフォリオ
７月１日発売！

マイケル・ケンナ氏が京都便利堂に来店！

イベント
作家サイン会
7/22(土)　15：00～16：00
上記日時、京都便利堂本店でポートフォリオをお買い求めいただいた方に限り、作家がその場でサインをいたします。

イベントについてくわしくはこちら

Hokkaido 2020

便利堂だより
バックナンバーもこちらから
京都便利堂オンラインショップ
www.kyotobenrido.com

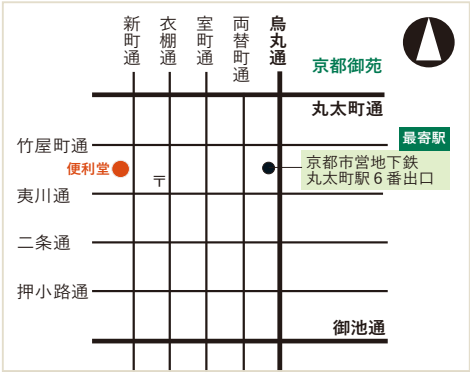
京都便利堂本店

祇園祭中の7月16・17日（日・祝）は営業。お盆期間中も通常営業。

便利堂本社１Ｆには、美術商品を取り揃えた京都便利堂本店を開設しております。ぜひ京都にお越しの際はお立ち寄りください。

【営業時間】 10：00 ～ 19：00
【 定 休 日 】 日・祝日
【Telephone】 075－231－4351（代表）

Instagram @ kyoto.benrido
twitter@kyotobenrido
facebook@kyotobenrido.shop



【アクセス】
〒 604-0093
京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町 302 番地

〈公共交通機関でおこしの方〉
・市営地下鉄烏丸線「丸太町」下車 ⑥番出口より徒歩７分
・市バス 「文化庁前・府庁前」下車徒歩５分

〈お車・タクシーでおこしの方〉
・京都駅から 15 分、お客様駐車場あります。
・タクシードライバーに「新町通り夷川（えびすがわ）上がる」とお伝えください。

コロタイプギャラリー

便利堂コロタイプギャラリー夏季企画展示
❶「第 11 回社員ワークショップ」展＆❷「コロタイプの世界」展

京都便利堂本店がある便利堂本社には、年間を通じてさまざまなコロタイプ作品を展示する〈コロタイプギャラリー〉が併設されています。夏季企画展示として、社員自らコロタイプワークショップで作品制作した❶とコロタイプをさまざまな角度から紹介する❷を開催予定です。

会期：❶ 2023 年 6 月 19 日（月）～ 7 月 8 日（土）
❷ 2023 年 7 月 15 日（土）～ 10 月 14 日（土）
開廊：平日 10：00 ～ 17：00
休廊：全日 12：00 ～ 13：00 及び日・祝日
入場：無料